

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4698900018
法人名	有限会社 笑風会
事業所名	グループホーム ゆい
訪問調査日	平成 20年5月29日
評価確定日	平成 20年6月28日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4698900018
法人名	有限会社 笑風会
事業所名	グループホーム ゆい
所在地	奄美市笠利町大字喜瀬2437番地1 (電話) 0997-55-2278
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 20年5月29日

## 【情報提供票より】(平成20年5月16日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年6月1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	3人
非常勤	6人
常勤換算	5人

## (2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有( ) 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

## (4) 利用者の概要(5月16日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1		3名	要介護2		5名	
要介護3		0名	要介護4		1名	
要介護5		0名	要支援2		0名	
年齢	平均	89.6歳	最低	84歳	最高	98歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	記念クリニック奄美 あかおぎ歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

笠利湾に面した風光明媚な町で、開設から満1年を迎えるホームである。地域の方々並びに自治体や医療機関の理解と協力で支えられて、入居者が安心して暮らすことができるように職員全員で取り組んでいる。ご家族や近隣の方々からの差し入れも多く、郷土料理を囲みながら、時には島歌も聞かせる平和な時間が流れている。入居者の言葉や表情からは、ホームへの信頼感と職員への感謝の気持ちが伝わってくる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が、初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	代表者および管理者をはじめ、職員数名を中心に自己評価を行い、できあがった評価票は全員に回覧の上確認している。職員は、評価の意義を理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホーム開設以来、2ヶ月毎にご家族、区長、民生委員、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員等が参加して運営推進会議を開催している。日頃の取り組み状況の報告や防災訓練への近隣住民の参加、家族会の発足等について話し合いを行い、サービスの質向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の訪問時に、居室や会議室で個別にゆつくりと話を聞く機会を持っているほか、運営推進会議でのご家族からのご意見を受けてホームの運営に反映している。現在、家族会の立ち上げを検討中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームで行う行事(誕生会・ひな祭り・創立記念日など)の際に、ボランティアをはじめ地元の人々との交流に努めており、近隣の方々が差し入れを持って訪ねて来られることも多い。入居者の状態にもより、地域の行事に参加する機会は多くは無いが、可能な限り参加するようにしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の人々との強い絆を育みます」という内容が盛りこまれた、地域密着型サービスとしての独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「豊かにゆったりと自分らしい生活ができる」という理念のもと、ホーム側の都合を押し付けず、個別性を大事にするケアに日々取り組んでいる。理念を共有するための、具体的な行動は今のところ見られない。	○	職員会議で理念について振り返る機会を持ったり、理念を唱和するなど、全員で理念を共有するような取り組みを検討していただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで行う行事(誕生会・ひな祭り・創立記念日など)の際に、ボランティアをはじめ地元の人々との交流に努めており、近隣の方々が差し入れを持って訪ねて来られることも多い。入居者の状態にもより、地域の行事に参加する機会は多くは無いが、可能な限り参加するようにしている。		
ぎ					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者および管理者をはじめ、職員数名を中心に自己評価を行い、できあがった評価票は全員に回覧の上確認している。職員は、評価の意義を理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム開設以来、2ヶ月毎にご家族、区長、民生委員、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員等が参加して運営推進会議を開催している。日頃の取り組み状況の報告や防災訓練への近隣住民の参加、家族会の発足等について話し合いを行い、サービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者は、自ら市担当部署や支所を訪問して連携を図っている。また、運営推進会議以外にも市介護保険課課長がホームを訪れるなど、日頃からサービスの質向上に向けて連携して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態に変化があった場合には、ご家族に電話連絡を行ったり、請求書送付の際にひと言添えるなどの報告を行っているが、入居者の暮らしぶりや金銭管理、職員の異動等についての定期的な報告は行っていない。	○	ご家族の安心を確保し、ホームとの信頼や協力関係を築くためにも、入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等の情報を、定期的及び必要に応じて報告できるように工夫していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時に、居室や会議室で個別にゆっくりと話を聞く機会を持っているほか、運営推進会議でのご家族からのご意見を受けてホームの運営に反映している。		家族会の立ち上げを検討中である。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、管理者を含め職員の交代が続いたが、現在は落ち着いている。職員が代わる際などに入居者へのダメージを防ぐために、認知症に関する勉強会を重点的に実施している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する勉強会や心肺蘇生訓練等、必要に応じてその都度実施しているが、計画的な研修は実施されていない。	○	管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングできるような体制を整備していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会については、加入に向けて現在検討中である。管理者および計画作成担当者は、近隣のグループホームを訪問して交流や情報交換に努めている。職員についても、介護業務の経験者が多く、個々に同業者等と交流して情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	キーパーソンとなるご家族による事前の見学や、入所中の施設のケアマネジャーとの事前協議により状態を把握するなど、スムーズに入居できるように配慮している。見学や体験入居については、パンフレットに分かりやすく記載されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域のことをよく知っている職員が、方言を使いながら昔からの行事や風習、郷土料理などを教えてもらったりして、お互いに支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほとんどの方が自分自身で意思を伝えることができ、職員はそれぞれの思いを把握しながら接している。不穏な状態になった場合には、まず本人に寄り添い気持ちを落ち着かせて、その対応については本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居から1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月と入居者の状況を確認しながら介護計画の検討を行っている。入居時にご家族の思いを確認したり、毎月のカンファレンスで入居者の状況とともに職員それぞれの意見を聞き、計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の申し送りの際、必要に応じてカンファレンスを実施している。その中で現状の介護計画で対応できないような変化が生じた場合には、計画期間終了前でも見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠隔地のご家族と顔を見ながら話すことができるインターネットサービスの整備、台風等の災害時や夫婦喧嘩の際の緊急避難所としてのホームの活用、介護保険・自立支援費(障害全般)の無料相談など、色々なサービスを地域に提供しながら支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望するかかりつけ医や協力医療機関、協力歯科医院と連携しながら、外来受診や定期健診、往診等、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたホームとしての方針は、今のところ明確に定まっていない。現在、医療連携体制の整備に向けて準備中である。	○	ホームとしての方針を明確にした上で、できるだけ早い段階に本人やご家族並びにかかりつけ医と話し合いを行い、職員を含む関係者全員で、重度化や終末期の方針を共有していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にも入居者の尊厳の遵守を謳い、日々のケアにおいて尊厳やプライバシーを損ねることの無いように配慮している。ホームには記録室を完備しており、個人情報については適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きるのが遅い方は無理に起こすことはせず、夜安眠できるようにかかりつけ医と相談しながら、本人のペースに任せている。日中も、それぞれのペースに配慮しながら希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方やご家族からの差し入れや地元ならではの食材を使い、郷土料理等をふんだんに加えて食事が楽しみなものになるよう工夫している。入居者も、おしぼり配りやお盆拭きなどできることをしてもらい、職員と一緒に同じ食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜～土曜の昼食後を目安としているが、就寝前や夕食後も要望があれば対応可能である。入浴を嫌がる方もいらっしゃるが、それぞれのタイミングを図りながら声かけして入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	島唄や六調を楽しんだり、昔農業をしていた方から教わりながらの野菜づくり、洗濯物たため、布団干し等々、それぞれの生活歴や力に応じた日々の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体的に歩行が困難な方が多く、日常的な散歩はなかなかできないが、車を使ったドライブや花見、お弁当持参での近くの公園への散歩、定期的な外泊など、ホームの中だけで過ごすことの無いように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、居室や玄関に鍵をかけることの弊害を全員で認識している。地域の方を含めて見守りに徹しており、入居者は自由に行動できる環境にある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	安全対策マニュアルを作成しており、自衛消防隊も組織して緊急の事態に備えている。夜間想定も含めて年2回、入居者も参加する避難訓練を実施しており、その際、心肺蘇生訓練やAEDの使用訓練も実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録しているが、水分摂取量の把握や栄養バランスについての対応は、今のところなされていない。	○	職員間で情報を共有して適切な支援が行えるように、水分摂取量を記録するなどの工夫をしていただきたい。また、カロリーの過不足や栄養の偏りが無いように、地域の栄養士や保健師等に、専門的観点からチェックしてもらうことを検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	島歌が流れるホールには、季節毎にお雛様や五月人形が飾られている。窓からは庭の草花や野菜の成長を見ることができ、居心地のよい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンスや位牌、使い慣れた道具等が持込まれており、入居者が安心して居心地よく過ごせるように工夫している。		